令和４年度 学 校 評 価 書　東温市立川上小学校

令和５年２月３日

１　学校の教育目標
未来を拓き、ともに生きる川上っ子の育成

２　経営の基本方針
○**協育**　みんなが協力して育てる学校　○**共育**　互いに聴き合い共に育つ学校　○**響育**　互いの心が響き合う学校　○**郷育**　故郷に育まれ、故郷を想い、故郷に還す学校
（目指す児童の姿）　かわすあいさつ　わかち合う心　かんがえ、聴き合う力　みんなで創り、踏ん張る力

評価領域	評価項目	評価の観点	評価 教職員	評価 児童	評価 保護者	考察及び改善方策	学校関係者評価委員の評価
生徒指導	いじめ・不登校等への対応	教育相談の充実といじめ・不登校等の未然防止、早期発見・早期解決に努めた。	3.5	3.6	3.2	【考察】 ○　本年度、東温市では「魅力ある学校づくり事業」を推進しており、本校でも「集団づくり」「授業づくり」に力を入れ、いじめ・不登校等の未然防止に取り組んでいる。また、教職員内の報告・連絡・相談も積極的に行っており、いじめ・不登校等に対し早期発見し、迅速に対応している。不登校傾向にある児童については、ケース会議を開いて保護者との連携を図っている。 【改善方策】 ○　一人一人の児童を見つめ、教職員間で情報共有しながら教職員から声を掛けていく。また、学級担任以外でも、どの先生にも相談ができるよう児童に知らせ、児童の不安解消にあたる。	○　生徒指導においては、本校の「いじめ防止基本方針」にそって、迅速な対応で取り組んでくださり、有り難く思う。 ○　いじめ・不登校への対応は評価が高いが、いつあっても不思議ではないので、継続していただきたい。 ○　保護者の方が、学校や先生方の対応に対して安心しておられるのが伝わってきます。組織的な対応をお願いします。 ○　少数ではあるが相談できていない児童に対して、相談しやすい環境を検討してほしい。
	基本的生活習慣の定着	挨拶や時間を守ること、整理・整頓などの定着に努めた。	3.0	3.2	3.1		
	生徒指導体制の整備	家庭や地域との連携を密にするとともに、報告・連絡・相談による情報共有に努め、組織として生徒指導を行った。	3.5	3.3	3.5		
確かな学力を育てる教育	基礎・基本の定着	各種学習プリントの活用や「漢字の広場」「計算の広場」「朝の読書」を利用して、学習習慣の確立や基礎的、基本的内容の定着を図った。	3.3	3.5	3.3	【考察】 ○　授業では課題を探求していく学習課題、「ことりタイム」を毎時間設定している。そして、タブレット端末を活用し、互いの考えを確認し合いながら授業を行っている。 ○　１０月末よりタブレット端末の持ち帰りが始まり、タブレット端末を用いた宿題も出すようにしている。タブレット学習と今までの宿題とのバランスを大事にして取組を進めている。 【改善方策】 ○　思いや考えを聴き合いながら思考し、主体的に課題を解決していくような授業展開に努めていくことで、予測困難な時代を生き抜く力を育んでいく。 ○　タブレット端末で自分に必要な資料を選んで調べる、できるようになるまで繰り返し問題を解くとともに、間違った問題や分からなかった問題は「家庭学習ノート」で復習をするなど、デジタルとアナログを併用させながら家庭学習がより充実するよう指導に努める。	○「ことりタイム」が定着し、児童が互いに考えを聴き合うことができていると思う ○　タブレット端末の家庭での活用により、学習に抵抗感があった児童も興味をもつきっかけになっていると思います。 ○　家庭学習においては、家庭学習ノートやがんばりカード等、学校から家庭への啓発している様子がうかがえる。 ○　家庭学習の充実は、学校と家庭の連携が大切ではないか。 ○　家庭での学習の取組方について、効果的な方法や環境など、保護者と情報共有しながら進めていくことで保護者の評価も変化してくるのではないか。 ○　ゲームをして家庭学習ができない子もいるだろう。ゲーム時間など自分で管理できるよう低学年から習慣化したい。
	家庭学習の充実	家庭学習の状況を点検し、主体的に学ぶ態度を高めるなど、家庭学習の充実に努めた。	3.1	3.2	2.8		
	言語活動の充実	思いや考えを聴き合う「ことりタイム」や学級活動等で発表する場面を工夫し、考え、聴き合う力（プレゼンテーション力・他の人の意見（思い）を受け止める、自分の意見（思い）を他の人に伝える）を育成した。	3.4	3.5	3.3		
	思考力の育成	課題探求型の学習課題を明示し、授業展開を工夫することで、児童に思考力・判断力・表現力等を育成した。	3.5				
豊かな心、健やかな体を育てる教育	道徳教育の充実	道徳科を要とし、全教育活動を通じて、互いのよさ・ちがいを認め、生かし合う心、仲間とわかち合う心（コラボレーション力・だれとでも一緒に仕事（活動）ができる）を養った。	3.0	3.5	3.4	【考察】 ○　学校行事や児童会活動、学級活動は、児童に自己存在感を感じさせ、自己有用感を育む大事な教育活動であると捉え、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を工夫しながら取り組んでいる。 ○　清掃活動では異年齢集団で行い、協力して活動しているが、今年度もコロナ禍で縦割り班遊びなどはできていない状況である。 【改善方策】 ○　道徳科の授業を中心とした全教育活動で取り組む道徳教育の充実を意識し、互いのよさ・ちがいを認め、生かし合うことを大切にしようとする児童の育成に努める。 ○　今後も、行事や児童会活動等の充実に心掛けながら、児童が主体となる「仲間づくり・集団づくり」、「健康づくり・体力つくり」を工夫していく。	○　道徳教育は、すぐに結果が見えないところもあると思うが、児童の声や思いを聞くと、着実に育ってきていると感じられる。 ○　コロナ禍でもできることを工夫して頑張っていると思う。 ○　仲間づくり、集団づくりなどはコロナ禍により難しい状況の中、工夫され実施されていると思う。 ○　コロナウイルスの影響で、集団づくりの難しさはあると思いますが、児童の成長に大切な集団づくりをお願いしたい。 ○　総合的な学習の時間の学習が毎年同じテーマであるなら、先輩たちに学習内容や調べた方法など聞くことでも、縦割りの活動はできるのではないか。
	仲間づくり・集団づくり	異年齢集団活動や児童主体の活動を通して、みんなで創り、踏ん張る力（イノベーション力・仲間と共に新しいことに進んで取り組む・少々のことではくじけない）を育成した。	2.9	3.5	3.4		
	健康づくり・体力つくり	自らの健康に関心をもたせ、保健指導を通して自己管理能力の育成に努めるなど、健康の精神を培った。また、体力面の課題を把握し、体育的活動の充実を図り、健康の保持と体力・運動能力の向上を図った。	3.3	3.4	3.4		
	食育教育の充実	食に関する指導を通して、食についての関心をもたせ、望ましい食習慣の形成や食生活の改善に努めた。	2.8	3.3	3.0		
特別支援教育	特別支援教育の充実	児童一人一人に応じた学習指導や生活支援に努めた。	3.3	3.5	3.2	【考察】 ○　「支援が必要な子に分かりやすい授業は、他の子にも分かりやすい授業になる」という授業のユニバーサル･デザインの考え方を大切にして、教職員の研修を進めている。 ○　「ことりタイム」の「困ったら、聴き合おう」が定着し、友達と協力して課題を解決しようとする意識をもつ児童が増えている。 【改善方策】 ○　より学びやすく、生活しやすくなるユニバーサル・デザインの視点に立った学級･授業経営の改善に取り組んでいく。	○　一人一人の実態を把握しながら、個に応じた支援は大変だと思うが、よろしくお願いします。 ○　就学前からスムーズに小学校生活がおくれるような引継等よくできている。 ○　教職員の評価が高くなっていることが、指導や支援に努めてくださっていると感じられる。 ○　特別支援学習などでコーディネーショントレーニングを取り入れてはどうだろうか。
安全・安心な教育環境の整備	登下校の安全確保	登下校の安全確保に努めるなど、家庭や地域・関係機関と連携して児童をまもり育てた。	3.3	3.7	3.5	【考察】 ○　登下校の安全確保に関しては、保護者の方や地域の方の見守り、教職員の登下校指導など、多くの目で見守り活動を行うことで大きな事故やけがなく登下校することができている。 【改善方策】 ○　防災教育については、学校・家庭・地域が連携して取り組んでいけるよう、避難方法や避難場所の確認等ホームページや校報で呼び掛ける。	○　「防災教育の充実」は、コロナ禍で大変だと思うが、地域に応じた実践活動ができればいいと思う。 ○　コロナ禍により地域での防災活動も縮小傾向にあるため、避難場所の確認など、保護者との情報共有を行いながら防災指導を引き続き行ってほしい。 ○　教職員の登下校についての評価が低くなっているが、地域の方の見守りが多くなったからではないのか。
	防災教育の充実	教科等における防災学習や行事等で防災指導を適切に行い、災害に適切に対応する能力の基礎を培った。	3.3	3.8	3.5		
家庭・地域との連携	開かれた学校づくりとコミュニティ・スクールの推進	学校や学年、学級の教育活動に対して、保護者や地域住民、外部人材等の参画及び協力を得た。また、学校運営協議会は、「地域とともにある学校づくり」を進める中核としての機能を果たした。	3.0	3.4	3.5	【考察】 ○　学校運営協議会や協働活動サポーターは、学校と連携・協働し、児童の教育活動を支えている。 【改善方策】 ○　今後も川上小学校の校訓でもある「健康・奉仕・親善」が実現するよう、全教職員で共通理解を図り、家庭・地域と協力しながら活動を進める。 ○　「校報かわかみ」や学年だより、本校のホームページなど発信する情報の充実に努め、本校の教育活動についてより理解していただけるように啓発をしていく。	○　地域の方が進んで見守り活動を行ってくださっていることは、多くの方からお話を伺う。また、朝早くから先生方も見守りをしてくれており、安全な環境が作られていると思う。 ○　「校報かわかみ」やホームページ等、児童の様子がよく分かり、充実している。 ○　放課後子ども教室等充実してきている。 ○　コロナ禍で保護者と教職員の親睦の場がなくなっている。
	ＰＴＡ活動への協力	各種ＰＴＡ活動に参加したり、協力したりした。	2.7		3.4		
	情報の共有化	積極的な情報公開・情報の共有化に努め、学校・家庭・地域が息の合った教育活動を推進した。	3.1		3.5		
特色ある学校づくり	青少年赤十字活動	わくわく班活動やＪＲＣ活動への主体的参加を通して、奉仕や協働の精神を培った。	2.9	3.4	3.1	【考察】 ○　１学期は運営委員会と６年生が中心となって挨拶運動に取り組み、全校に広げていたが、第７・８波での感染症対策のため、挨拶運動を中止している。 ○　２学期は環境委員会が「ちょボラ」を呼び掛け、児童は中庭等の朝清掃に取り組んだ。 【改善方策】 ○　どのようにすれば友達や地域の方にも挨拶ができるようになるか、児童とともに考えていく。	○　赤十字の精神は何十年も続いていて、高学年が手本となって行動や活動をしてくれていることをうれしく思う。 ○　挨拶運動の評価が低い。何か手立てをしているのか知りたい。
	挨拶運動	校内や地域で進んで挨拶を交わす児童（コミュニケーション力・だれとでも意見交換ができる）を育成し、親善の精神を培った。	2.6	3.4	3.2		
施設・設備の充実	ＩＣＴの有効活用	タブレット端末やＩＣＴ機器を有効に活用し、分かりやすい授業づくりに努めるとともに、情報機器の適切な利用について指導した。	3.4	3.7	3.3	【考察】 ○　８月末に普通教室に黒板いっぱいに映せるプロジェクターが設置され、授業支援に大きく役立っている。放課後のミニ研修を定期的に行い、授業でタブレット端末を利活用する場面が増えた。児童間の考えの交流や学習内容の定着の一助として役立っている。 【改善方策】 ○　今後は、情報モラル教育や効果的な活用について教職員で研修に努め、環境整備も進めていく。 ○　通信障害による不具合があり、市教委に改善をお願いしている。	○　清潔な印象があり、学校全体の雰囲気が明るい。 ○　タブレット端末の活用では、家庭での効果的な活用が行えるよう期待したい。 ○　時代に合わせたＩＣＴの活用がどんどん充実していて、時代に沿った活動ができていると思います ○　日常的にＩＣＴ機器を学習に活用していると児童から聞く。自分で考えＩＣＴ機器を使っていると感心する。
	施設・設備の安全管理	安全点検の日常化を図り、安心･安全な教育の場づくりに努めた。	3.5	3.7			
	校内環境の整備	季節感のある校内掲示や栽培活動への取組を行い、花と緑の美しい、潤いのある学校づくりに努めた。	3.3		3.4		